

續高見順日記

才三卷

勁草書房

続 高見順日記 第二卷

1975年 8 月 17 日 第1刷発行

著 者 高 見 順

発 行 者 井 村 寿 二

東京都文京区後楽 2-23-15

印 刷 者 山 田 博

東京都板橋区高島平9-13-7

発 行 所 東京都文京区 株式会社 勁 草 書 房
後楽 2-23-15

落丁本乱丁本はお取りかえします。

© 1975 Jun Takami

※ 定価は外函に表示してあります。

三陽社印刷・牧製本

Printed in Japan

0395-881100-1836

続高見順日記 第二卷 目次

わが文壇生活二

昭和三十八年一月	5
昭和三十八年二月	27
昭和三十八年三月	45
昭和三十八年四月	71
昭和三十八年五月	101
昭和三十八年六月	133
昭和三十八年七月	163
昭和三十八年八月	189
昭和三十八年九月	215
昭和三十八年十月	267

わが文壇生活
二

昭和
三十八年

一月一日

前夜からそのままおきていて、朝九時から十時までのテレビ「新しい日本文化」を見る。
空腹のまま、ねる。十一時半に眼がさめ、雑煮。
それなりもう寝ないで、二階の書斎で「いやな感じ」の直し。

一月二日

午後、「いやな感じ」の手入れ。

茅野君来る。

夜、川端家へ。恒例の新年宴会。

三島由紀夫に会う。林房雄が大酩酊、大気焰。今年から「朝日」に文芸時評を書く。(すでに一回出た)それがひどくうれしくてたまらないのである。やはり無邪気な、いい人間なのだ。

一月三日

宿酔。

わが家の新年宴会。

一月四日

「いやな感じ」の直し。夢中である。坐り通しで、徹夜。朝になってから寝る。万年床である。

一月五日

吾妻君子さんから吉原に誘われていた。ガラスの岩田藤七氏も来るという。(岩田さんから、かねて吉原で遊ぼうと誘われていた)

いったん家を出たが、どうも気が向かなくて家へ戻る。

そして「いやな感じ」の手入れ。ツカれている感じ。

一月六日

「いやな感じ」より、ほんとには「激流」に手を入れなくてはいけないのだ。第一部が終って、岩波から単行本を出すのだ。(私の「激流」出版で文芸物出版に入りたいと、岩波雄二郎さんが家へ来たのは何年前か。)

「いやな感じ」はまだ終ってない。もうすぐ終るのだが——単行本のための原稿の手入れ、直しに夢

中。

坐り通しのため、膝がガクガクする。

一月七日

文藝春秋社へ。

池島君に会い、佐佐木さんに会う。(近代文学館のこと、その他)

佐佐木さんと「新喜楽」へ。

新年宴会。久し振りに佐佐木直、中山素平の諸氏に会う。文士は丹羽(註||丹羽文雄)、石川(註||石川達三)今日出海、源氏鶏太、それから漫画の横山隆一。大蔵省関係者は「カルタ会」のため、みな遅れた。阪田(註||阪田泰三)、森永(註||森永貞一郎)、渡辺(註||渡辺喜久造)、石野(註||石野信一)、村山(註||村山達雄)の諸君。

一月八日

「激流」の手入れにかかる。

徹夜、朝まで。

一月九日

「激流」の手入れ。

『小説新潮』の丸山君来る。飲む。

丸山君帰り、机に向つて仕事をしているうちに、酔いがさめ、仕事つづける。「激流」の手入れ。

一月十日

「岩波」竹田（註||竹田行之）君来る。

大久保房男君来る。お父さんが大阪でガン手術。四年前に一度手術した。今度はダメだろうと言う。お父さんを心から愛し、尊敬している大久保君の心中を思う。

一月十一日

首相官邸へ。

文化、芸能界の人々を招いたのだが、大変な人数。

中途で逃げる。

伊藤整君と歩き、話をする。

「山の上ホテル」へ。（313号室）

「夕閑帖」の清書。石川宮子さんに渡す。

「激流」のための参考書を読む。徹夜。すでに今までも読んでいたものだが、ここに挙げておく。

（満洲事情および合作社と開拓民の参考書）

佐藤大四郎『満洲に於ける農村協同組合運動の建設』（満洲評論社、昭和十三年）

島木健作『満洲紀行』（創元社、昭和十五年）

橋本傳左衛門、加藤完治、永碓策郎監修『満洲農業移民十講』（昭和十三年）

朝日新聞社編『滿蒙開拓青少年義勇軍』（昭和十四年）

滿洲事情案内所編『滿洲戰蹟巡礼』（昭和十四年）

久我莊多郎『北辺の防人』（昭和十九年）——これは愚劣な読み物だった。

『中央公論』昭和十六年三月、塙政益（塙英夫のことなり）「アルカリ地帯」（「新人」入選創作）

『改造』昭和十二年十一月、大谷藤子「北満の旅」

昔はこんな参考書を読んで小説を書くというようなことは絶対にしなかった——できなかったものである。

一月十二日

朝八時まで起きていた。ベッドにはいったが、寝つかれぬ。——寢酒のウィスキー、ノクターン三錠飲んだのだが、空腹を覚え、そのため寝られぬらしいと、朝食（和食）を頼んだ。

正午、習慣によって眼がさめる。

外へ出る。昭森社へ行き、森谷君とラドリオへ。小田（註||小田久郎）君も来る。

『古書通信』の八木さんに会い、メリヤス関係の本の広告を頼む。

三時より仕事。「激流」第二部に、すっとはいれる。

七時、NHKラジオ教養部の浜井（註||浜井修）君来る。来月の仙台講演の件。

NHKの車で銀座へ出、ひとりで煉瓦亭へ行き、スープ（百五十円）、大カツ（三百円）。ラドリオのホット・ドッグ、コーヒーだけなので空腹。

「田岡」をのぞいたが誰もいない。地下鉄でホテルに帰る。

ベッドで夕刊を読んでいたら、ねむくなり、十一時まで寝る。

バスにはいり、仕事。三時。

一月十三日

オートミールを食べ、仕事。

ヘイさんこと吉村（註リ吉村平吉）君がナベさんと一緒に来る。トラちゃん（新橋で屋台のおでん屋をやっている寺沢（註リ寺沢寅男）君）の友だちで、かねてオンボロ芸術家集団をやっている人々。パタ屋、靴ミガキ、バイラー（ボン引き）の仲間で、詩や画をかき、芝居を自分たちの手でやりたいと言っていたが、今月の二十四日に「ガスホール」でオンボロ・フェスティバルをやるという。

「慶楽」で二人とメシを食う。腹いっぱい食う。

新橋の「ヴィクトリア」でコーヒーを飲み、帰って仕事。

一月十四日

朝六時に寝た。寝酒をつい飲みすぎた。これではまだ寝られないと、サントリーをチビチビ飲んで、いるうちに、つい飲みすぎ。

宿酔気味。

しまった、どうしてこうなんだろうと自嘲。水をガブガブ。

二時までねる。

小田君に「ラドリオ」で会う。

小田切君から電話。

東京都の法人係から、主な寄附申込者の銀行預金の残高報告を出せと言われ（この話は前にすでに聞いた。私はとても資格がないと思い、五十万円寄附申込の伊藤整、丹羽文雄両君に頼むようにと小田切君に言った。）伊藤君からはすでに貰ったが、丹羽君に頼むにつけて、堺君から言って貰おうと思ったら、カゼで休み、小畑君に電話したら、自分から丹羽さんに言うのはちょっと……という返事だったと小田切君は言う。私から丹羽君に言っただけという小田切君の電話である。

私もちょっと躊躇。そこで妻に電話したら、横浜銀行に五十万円ぐらいの預金はあるはずだと言う。しらべさせたら、七、八十万円ぐらいはあると言う。私は預金など何も無いと思っていた。

小田切君に、丹羽君のかわりに私が残高報告書を出そうと電話。

——こんなことを書いたのは、都の法人係が実になんと言うか、不親切と言うか、無礼と言うか、役人根性の典型である。

最初、寄附申込書は一通でいいと言っておいて提出間際に二通だと言う。出したらまた、三通にしろと言う。すべてこの調子。伊藤成彦君はテンテコ舞い。

一万円の寄附申込者に対しても、銀行の証明を出せと言った。これは小田切君が頑張って蹴った。法人係の名前を、そのうち聞いて、日記に明記しておこう。

実にケシカン奴だ。イヤガラセばかりする。敵意を持っているとは思えないが、小役人根性だ。こういう小役人が今もって現存するのだ。

ヘイさんから電話。上田吉二郎、梶大介（名前、不正確）のバタヤ映画「おれたちだって人間だ」を二十四日の会に貸して貰えそうだと言う。よかったと私は言った。

夕食に外へ出ると烈風。

眼にゴミがはいる。

ロート目薬を買った。ゴミはとれたようだが、眼に傷がついたらしく、いつまでも何かコロコロしている。――目薬をさした。

だんだん痛み出した。

眼が真赤になった。目薬のさしすぎかもしれぬ。

家から電話。義兄夫婦上京。義兄は停年でCBC（註||中日放送）を退社、子会社の専務になったと言う。

眼が痛くて仕事できない。ハンカチを水で濡らし、眼に当てて冷やす。眼鏡をかけてハンカチがはずれないようにして横臥。

そのまま寝てしまった。

一月十五日

よく寝た。

前夜はカゼ気味だったが、疲れのためだったらしく、そんな感じは一掃された。

眼の痛みも、ウソのように消えている。

オートミールを食べて仕事。

小田君来る。

詩集（註）『わが埋葬』の寄贈先の署名。

五十冊。雑誌社関係には送れなかった。

「ハチマキ」で天ぷら。小田君と。

成人の日なので、外は静か。

一月十六日

『マドモアゼル』に「愛を語る」六百字を書く。

「激流」渋滞。

「文春」の徳田君に電話。芥川賞候補者の略歴表のことを聞く。

「文春」へ行く。車谷君と玄関で話をする。

徳田君と「田岡」へ行って飲む。

ヒメ来る。ヒナトメ来る。ブーちゃん来る。ヒメと「ラバン・アジュール」へ行く。

ヤッコ酪酊。銀座では古い女なり。今は「ラバン・アジュール」の雇われマダム。競馬で七千円儲けたから、今夜は奢ると言う。実に気のいい女。古い銀座の女である。

「田岡」へ戻っておニギリを食う。ヒメのところへT子来る。ヒメは他の女との約束があるので、T